

(4) 南 関 東



南関東地域では、景気は持ち直しの動きがみられる。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費は底堅く推移している。
- ・ 雇用情勢は緩やかな持ち直しに足踏みがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(〓は上方に変更、〓は下方に変更)。

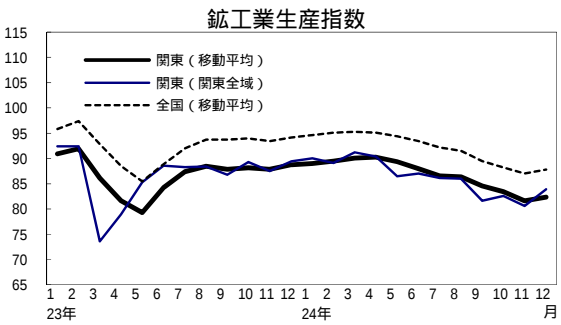
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 24 年 11 月)	今回 (平成 25 年 2 月)	
景況判断	弱い動き	持ち直しの動き	↑
鉱工業生産	減少	持ち直しの動き	↑
個人消費	弱い動き	底堅く推移	↑
住宅建設	おおむね横ばい	大幅に増加	↑
雇用情勢	緩やかに持ち直し	緩やかな持ち直しに足踏み	↓

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。(関東全域)

輸送機械は、震災復興と輸出向けに普通トラック、小型乗用車で増産となり生産の減少幅が縮小している。一般機械は、半導体製造装置が国内半導体メーカーからの受注減、蒸気タービン部品が国内電力会社からの受注減等の影響により減少している。電気機械は、開閉制御装置が国内鉄道会社等からの受注減、電力変換装置が国内電力会社からの受注減等の影響により減少している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)					
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7～9 月期	10～12 月期	10～12 月期	10～12 月期
輸送機械	15.2	▲11.9	▲2.9	▲3.6	▲7.5
化学	13.4	▲3.0	—	—	—
一般機械	13.2	▲5.0	▲8.1	▲7.1	▲3.8
電気機械	7.8	▲4.6	▲5.3	▲3.5	▲5.1
食料品・たばこ	7.1	▲0.3	—	—	—
鉱工業	100.0	▲3.9	▲2.6	▲1.9	▲10.3

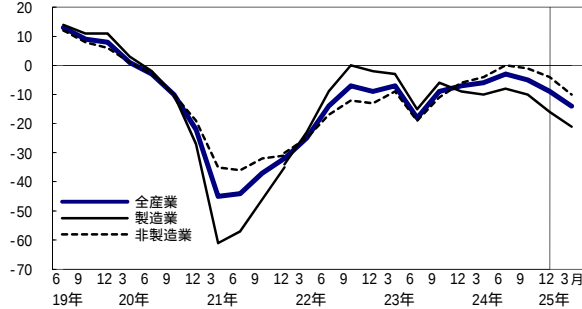
(備考) 1. 17年=100、季節調整値。関東の最新月は速報値。
2. 全国及び関東の太線は後方3か月移動平均。

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
2. 10～12月期は速報値。化学、食料品・たばこは速報値では公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]

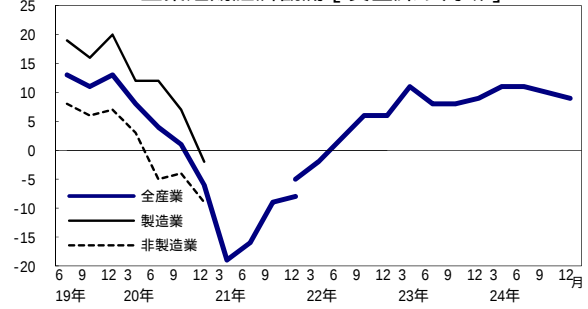


(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。25年3月は予測。

21年12月は新・旧基準を併記。

関東全域(新潟県を含む)。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]

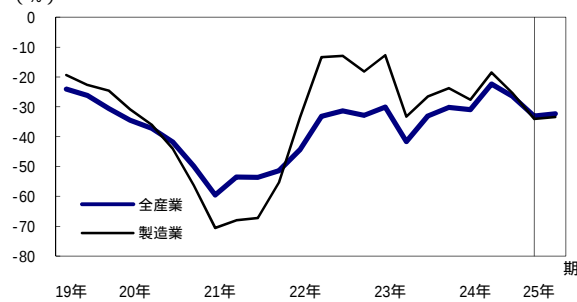


(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。

21年12月は新・旧基準を併記。

日本銀行横浜支店管内。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断、関東全域]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。25年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

「新内閣の力強いリーダーシップで、国民の期待感が高まっており、気分的に明るくなっている。しかし、経済的には今のところ厳しく、何も変わってはいない(輸送用機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 24年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

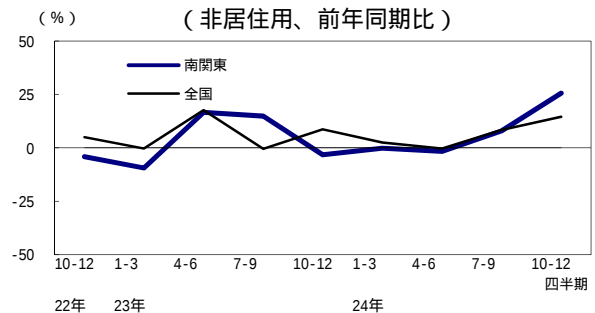
企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	23年度実績	24年度計画
全産業	▲4.5	14.4 (1.4)
製造業	▲11.5	17.0 (1.9)
非製造業	13.0	9.1 (0.2)

(備考)()は前回(9月)調査比修正率。

調査対象は神奈川県。

建築着工床面積
(非居住用、前年同期比)



(4) 南関東

2. 需要の動向

(1) 個人消費は底堅く推移している。

大型小売店販売額

大型小売店販売額は、前年同期比で1.4%減、前期比で1.2%増となった。

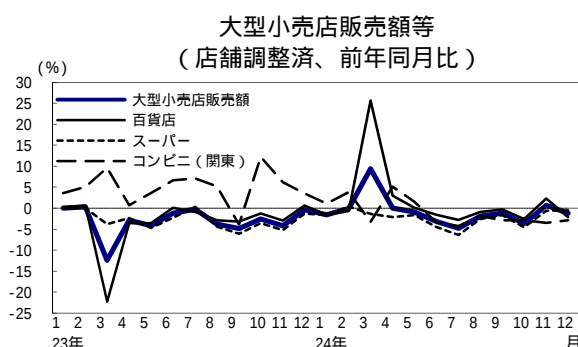
百貨店は、10月は、月前半の気温が高かった影響で、秋・冬物衣料が振るわず、前年を下回った。11月は、気温の低下により冬物衣料雑貨が活発に動いたことから、前年を上回った。

12月は、季節商品の需要が前月に前倒しになった影響を受けて不調となり前年を下回った。

スーパーは、気温の低下とともに秋・冬季節商材の動きが活発となったが、10月前半の高温の影響と、野菜などの相場の影響により、全体としては前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

「最近では天候が悪く、雪が降ったりすると客の出足が途端になくなる。こういう天候が続いているために、かなり売上の落ち込みが見られる(商店街)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	24年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店(*1)	2.4	▲1.4	▲2.8	▲1.4
百貨店(*1)	6.8	0.4	▲1.5	▲0.8
スーパー(*1)	▲0.9	▲2.8	▲3.7	▲1.8
大型小売店(*2)	2.8	▲0.9	▲2.1	▲0.8
(季節調整値)(*3)	(▲0.6)	(0.1)	(▲0.9)	(1.2)
乗用車(*4)	49.3	62.5	15.1	▲2.9
(季節調整値)(*4)	(18.2)	(▲8.8)	(▲7.4)	(▲3.1)

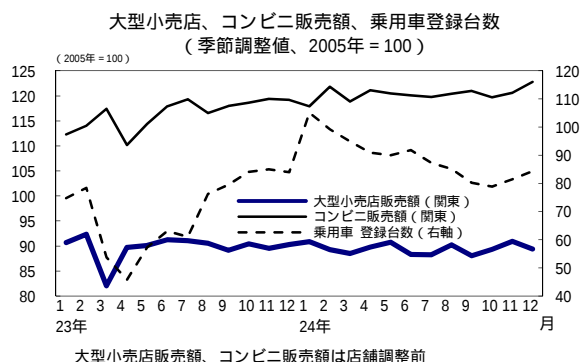
(備考)1. 南関東地域、店舗調整済、前年同期比(%）、10-12月は速報値

2. 南関東地域、店舗調整前、前年同期比(%）、10-12月は速報値

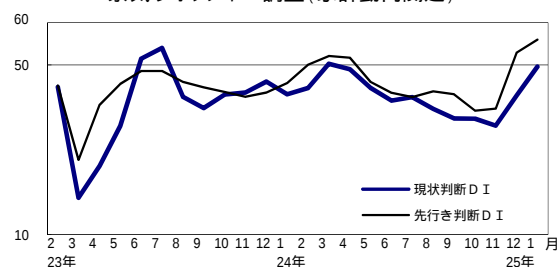
3. 関東全域、店舗調整前、前期比(%）、10-12月は速報値

4. 乗用車は新規登録・届出台数

(上段：前年同期比、下段：前期比、%)



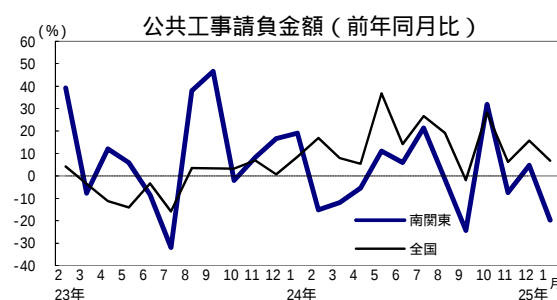
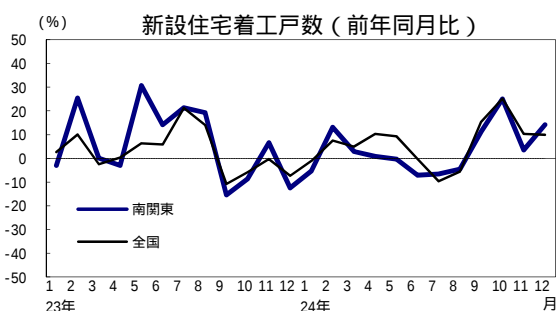
景気ウォッチャー調査(家計動向関連)



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

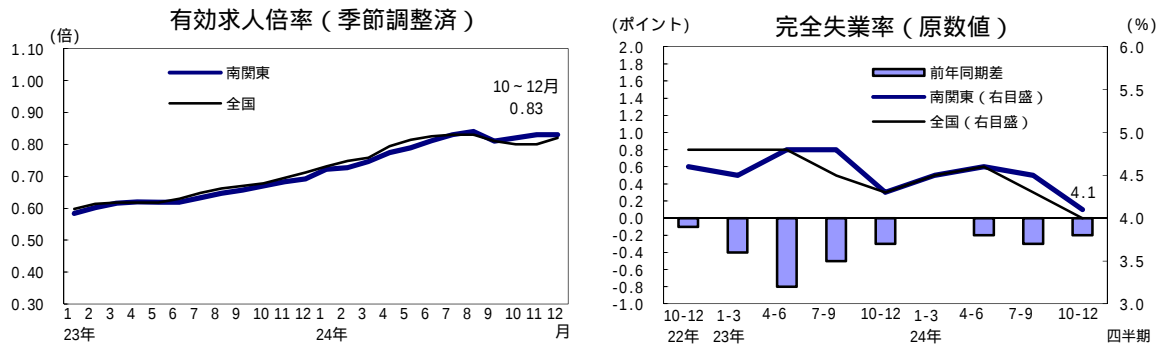
持家、貸家、分譲が前年を上回ったことから、大幅に増加している。

(3) 公共投資は24年度累計でみると前年度とほぼ同水準となっている。



3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は緩やかな持ち直しに足踏みがみられる。
有効求人倍率及び完全失業率
有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査（1月）[雇用関連（現状）]

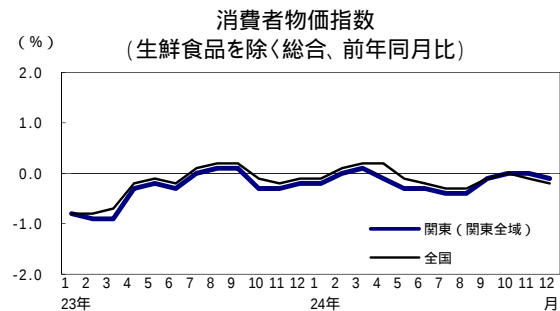
「一部の企業では業務繁忙に伴い人材派遣の活用を再開する企業も出てきているが、電気、電子部品、半導体等、業種によっては、業績不振により更なる経費削減策を取り、人件費削減の動きもある（人材派遣会社）」など「変わらない」とする回答が多くみられた。

- (2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額は増加している。

- (3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	24年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	25年1月
倒産件数	1,095	1,068	947	929	338
(前年比)	8.5	4.2	▲7.4	▲9.5	▲2.0
負債総額	9,424	2,293	3,716	2,630	992
(前年比)	311.9	25.8	1.3	21.5	▲56.1



○ 景気ウォッチャー調査（1月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

- ・新政権になり総理が積極的に行動しているせいか、消費者の気分も違ってきているようである。不安もあるが、期待と節約疲れなどが感じられる（一般小売店[家電]）。

<先行き>

- ・企業の求人数もやや良い状況を維持しており、また、消費税増税前に大きな買物の駆け込み需要も、今後、徐々に出てくると思う（人材派遣会社）。

